

【研究概要】

胃腫瘍に対して内視鏡治療を施行した患者を対象として、治療直後の切除部潰瘍の大きさを計測後に抗潰瘍治療を行う。術後4週間後、8週間後の潰瘍縮小程度の評価と臨床症状に関するアンケート調査を行い、内視鏡治療後のポノプラザンとエソメプラゾールの術後潰瘍治癒効果及び症状の推移を比較し検討する。